

〈日本 SPF 豚研究会誌〉

「All about SWINE」投稿のお願い

SPF 豚の普及に役立つ調査・研究論文および防疫、飼養、流通、消費等に関する解説・資料等の原稿を募集しております。下記要領にご留意の上、ご投稿下さい。

1. 原稿は原則としてワープロを使用してA 4用紙に22字×33行、横書きで作成する。手書きの場合は、原稿用紙を送付しますのでご請求下さい。
2. 原稿の1枚目には表題、投稿者名、所属機関名（郵便番号および住所）を記す。2枚目以降の記述形式は特に定めないが、資料等を引用した場合は末尾に「参考資料」または「引用文献」の項目を設ける。
3. 表は原則として縦罫線を使用せず簡潔なものとし、また図はそのまま印刷が可能なように白色紙または方眼紙に黒色で記入する。写真は原寸印刷が可能なように原則として横7cm程度、縦7cm以下とする。
4. 原稿の送付先は当分の間「〒305-0856 つくば市観音台3-1-5 独立行政法人・動物衛生研究所 小林秀樹」宛とする。

〔編集後記〕

ノロウイルス（旧名：小型球形ウイルス）が話題になっている。牡蠣をはじめ二枚貝の生食、不十分な加熱調理によって食すると食中毒を起こすことがあるそうだ。集団発生事例の多くは、初発患者が増殖させたウイルスを嘔吐物や下痢便に排菌することによってヒト→ヒト感染を起こした結果のようである。空気あるいは接触感染を起こす病原体を誰かが保有していると集団の規模に相乗

して特定個体の感染危険度が増加する。冬季、都市部に出張すると体調を崩すことが多いことで実証済みである。都会で生活していた頃はそのようなことはなかった。歳もあると思うが、社会構造の変化と馴致が大きな要因だと思う。馴致で得られた免疫力も月日とともに低下したのだろう。

ノロウイルスはカリシウイルス科の同属同種ウイルスである。かつては子豚の下痢便から高い割合で分離されるサッポロウイルスが同種だった。両者とも培養不可だが、PCRで区別できることから分類されたわけである。サッポロウイルスの病原性は高くはないが、乳幼児の急性胃腸炎の主因とされている。一方、豚のサッポロウイルスがヒトに病気を起こすかどうかかわからないが、ノロウイルスと区別されることはありがたい。

（小林秀樹）

「All About Swine」

第26号 2005年2月発行 定価1,500円

発行所 日本SPF豚研究会

〒305-0856

茨城県つくば市観音台3-1-5

動物衛生研究所

事務局 (株)伊藤忠飼料研究所

予防衛生チーム内

〒325-0103

栃木県黒磯市青木919

Tel: 0287(64)3652

Fax: 0287(63)8384